



テーマ	幼児安全法講座				
日時	10月 7日 (火) 10:00～12:00				
場所: 横浜北 YMCA	参	講師	日本赤十字社指導員 高森 茂範さん		
	加	講師	日本赤十字社指導員 伊佐治 千尋さん		
	者	一般	7名	スタッフ・ 関係者	13名
	合計	会員	7名	サポーター	6名
	33名	進行:	牧谷		記録: 畑中
<p>1. テキストによる講習</p> <p>(1) 導入</p> <p>1歳から24歳までの死因第1位は、不慮の事故である。24歳以降は、自殺が第1位となる。子どもの安全のためには、周囲が不慮の事故にたいして、処置できる知識を持っていることが、大切だ。また成人してからは、自分自身で心の健康を守るように、ストレスに負けないように心を鍛えることが大切だ。</p> <p>子どもの安全を考える時、大人として、手を貸すことばかりではいけない。ころぶ前に手を出しては、子ども自身の安全能力が育たない。転ぶ体験が痛みを知ることにつながり、子どもの安全能力を育てる。保護者の役割は、ここまでは、体験させる、ここからは助けるという見極めをつけることだ。</p> <p>(2) 子どもに対しての蘇生法: 日本赤十字社子どもの手当で参照 (<a href="http://www.jrc.or.jp/safety/child/index.htm">http://www.jrc.or.jp/safety/child/index.htm</a>)</p> <p>蘇生法が効果的なのは、救急車到着までの6分間である。</p> <p>この6分間に対処できる蘇生法を習得していることが子どもの命を救う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの場合、脈をとる場所は、上腕の内側、胸(心臓)が見やすい。</li> <li>・病院へ行く判断のポイントは、顔色、息遣い、嘔吐、ひきつけ、ぐったりしているかどうか。</li> <li>・子どもの目線の高さにあるモノには、注意する。</li> <li>・高熱のある時は、おでこより、動脈が通っている、わきの下、首筋を冷やす。体をふいてあげる(気化熱でまた、こまめに水分補給する。</li> </ul> <p>子どもが育つ環境も大切。エアコンの中で守られて育っていくと、暑さ・寒さの経験が足りず、脱水症を起こしやすいような体質になっていく。野外での経験もたくさんさせてあげたい。</p> <p>(2) 実技(とっさの手当て参照: <a href="http://www.jrc.or.jp/safety/index02.html">http://www.jrc.or.jp/safety/index02.html</a>)</p> <p>観察: 意識の確認 (<a href="http://www.jrc.or.jp/safety/child/heart.html">http://www.jrc.or.jp/safety/child/heart.html</a>)</p> <p>体位の変換(傷病者の寝かせ方): 意識のある時は、水平、意識のない時は、横向きにする(気道の確保)</p>  <p>保温(安静・体位・保温: <a href="http://www.jrc.or.jp/safety/care/index.html">http://www.jrc.or.jp/safety/care/index.html</a>)</p> <p>傷病者の下に、体温を保温するため、あれば、毛布や、新聞紙でもいいので、敷く。</p> 					

## 蘇生法の気道確保

誤飲 吐かせ方1:ひざにのせる



吐かせ方2:背中を押す



パストで包帯 (<http://www.jrc.or.jp/safety/injury/bandage/ouyou.html>)

包帯のない時、ストッキングが固定のために使える。骨折した個所をつるなどに

バンダナで包帯:子どもの場合、バンダナも骨折の固定時には有効。

雑誌でそえぎして、バンダナで固定す



## (3) 具体例・質疑応答から

- ・子どもの場合、普通に遊んでいる状態でも、息遣いがおかしい=ヒューヒューしているような時、誤飲している場合があるので、おかしい息遣いに気づいた時は、除去してみる。
- ・子どもの転倒の対処  
泣かない、ぐったり、意識なしは、すぐ病院(小児科ではなく、できれば脳神経外科)へ。  
泣いたが、しばらくしたら、泣きやんだら、様子を見る。入浴は控える。
- ・中毒110番につながらない。(http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf)  
子どもが薬を誤飲したが、中毒110番につながらず、病院へいったが、待たされた。  
中毒110番がだめなら、身近に本や、インターネットがあれば、そちらで調べる。  
また、病院処方薬なら、処方した病院へ連絡を取ってみる。わからなかったら、まず、水を飲ませて、薄めてやり、吐かせるのが早いだろう。
- ・出血した場合、どのくらいの量が危険なのか。  
体重  $\times 80 \div 3$  の量を目安に。  
例: 9kgなら、 $9 \times 80 \div 3 = 240\text{cc}$  の出血で危険。

## 感想

私は小学生の親です。今まで、子どものいろいろな怪我・病気・入院など経験してきました。もっと早く、この講座で勉強していれば、子どもに少しはつらい思いをさせなくて済んだかもしれないと思いながら、聞いていました。

ですから、ベビーカーで赤ちゃんを連れてきてくださった、お母さん達は、えらいなあと思って見ていました。きっと、この子たちは、うちの子のような、つらい目には、あわずに済むのですから。

私のように、ある程度、病気やけがも経験すれば、多少の知識はつきますが、それは、子どもの犠牲の上です。痛い、苦しいを言葉で上手に伝えられない子どもたちの様子を判断するという、難しいことをお母さんたちができて、当たり前というのは、幻想です。一つ、一つ、親として学んでいかなくてはできないことなのだと思います。その学びの場面をびーのびーのがお手伝いできたとしたら、いい機会になったのではないのでしょうか。